

## 調査結果報告

### 1 地層構成について

全体に、上部は 30cm 程度は砕石等からなる盛土材で、これ以深、概ね均一な砂質土が成層している。

この砂質土の砂分は細砂主体で、含水中位でルーズな状況を示す。

また、今回得られた自然地下水位は、GL - 0.9m 前後にて確認している。

### 2 分析結果について

油臭・油膜調査については、No.1、No.4 地点の地下水について油臭・油膜共に確認した。No.1 については、「やっと感知できる程度」の臭気であったが、No.4 地点については、「強いにおい、強烈なにおい」の臭気であった。

次に、油分分析（キシレン）については、試料採取を行った 4 箇所にて、地下水および最深部の土壌を対象にキシレンの分析を行ったが、結果としては、地下水および土壌共に定量下限値以下であった。

最後に油分分析（TPH試験）については、油臭・油膜調査で強い臭気を確認した No.4 地点について、油分分析（TPH試験）を実施した結果、軽油の可能性が示唆された。

これらの結果から、No.4 地点の地下水位付近（GL-0.88m）は、軽油系の油分が存在していることが得られた。

前述したように、油分が土壌に残っていても、油分は有害物質では無いとされていることから、当該調査地は土壌汚染対象地外と評価できる。

ただし、今後の造成時等に掘削を行った場合、GL-1.0m 以浅の地下水面付近より油分の臭気を発することが想定できるため、場合によっては施工時に平面的な範囲を特定し、油臭がする掘削土については、処理することも有効であると評価する。

以 上